

リレー随筆

探検!九州外 ～行ってみたいと思いませんか～

| 鹿児島市立病院 初期研修医 | 宿里 正顕

2023年も師走となり、1年を締めくくる刊に投稿させていただくことになり光栄です。鹿児島市立病院初期研修医の宿里正顕と申します。それにしてもこのリレー随筆を初めて知ったのはいつでしょうか。初めて読んだ作品を今でも覚えています。作者とは知り合いでないため紹介は割愛させていただきますが、あの名作を知った我が身にあれほど読み応えあるおもしろいものを書けるだろうか、いや無理ですよと痛感しております。それにしても、今回依頼を受けて改めて過去作を見るに、皆様趣味もなく過ごされている様で同じ無趣味の私は安心するばかりです。それどころか、無趣味であることを綴ることは慣用句ではないかと思ふばかりです。そんな私の考えたテーマは、「卒業旅行～同行者のゴールドカードは一人旅～ヴァチカン編」や「シイタケとナメクジ」「北海道電車の旅～国試合否発表の時間は圏外!?～」 「純白の骨～親指はどこ～」など案外枚挙にいとまがない。しかし題名は一丁前に思いつくのにな内容はないために、やはりおもしろく書けるはずもないのでまとまらない。とはいえ僣越ながら、徒然なるままに大学入学以降の国内旅行記を書いてみようと思います。

毒ガス島行こうぜ!

私のお気に入りの観光地は京都です。何度も訪れ、また初めて転院搬送で行った場所でもある我々の原風景の1つを成す、言わずと知れた一大観光地です。コロナ禍以

降は国内からの観光客しかおらず、とても観光に適した時期だった様ですが、いまは脱コロナと呼ばれ海外からの観光客も増え、オーバーツーリズムが問題となっています。ココロの高齢化が進行して久しい我が身には、もとい医療者である我が身にはやはり人混みにいるのは少し憚られるものがあります。別にインバウンドで高くてケチ的にアウトだったからではありませんよ?そこで行われたのが脱京都です。



写真1: フェリー乗り場前のお店

いくつか行った場所の中で今回皆様にオススメしたいのが通称「毒ガス島」です。なぜ毒ガス島と呼ばれているかというのと、かつて軍の毒ガス兵器工場があったため、現在はその兵器工場跡地や資料館があるのみですので安心してください。こちら正式には大久野島といい広島県竹原市にあ

ります。鹿児島からですと新幹線で福山駅まで行ったあとに、在来線で忠海駅まで乗車。次に忠海駅近くからフェリーに乗るのが良いかと思います。福山駅からですと在来線では道中尾道がありますので、尾道観光のついでに、いや大久野島ついでに尾道に行くのも良いかと思います。



写真2：夕日とウサギ

さて、ここは元々軍事施設があった離島ということで、他の猿島（神奈川）や友ヶ島（和歌山）などと違うオススメポイントはなんでしょうか。それは野生のウサギが大量に生息している点です。他にはメインの場所で山を登らなくていいとか人が少ないとかありますがそんな些事はおいておきます。そう、自分の居場所がない方や、愛に飢えている皆様にぜひオススメしたい。そして泊まっていただきたい。近隣の猫カフェでは味わえない感動と充足感が得られることでしょう。まず、宿泊施設としてはキャンプ場を除けば休暇村しかありません。温泉付きで、味音痴の私でも美味しいと舌鼓を打つほどのバイキングもあります。夜には休暇村玄関で海ほたる観察会もあり、キッズにも好評でした。その実、祖父母世代の方が興奮していた様にも見えてましたが。ではなぜ泊まって欲しいのかというと、それはウサギが夜行性だからです。日中は木の下に隠れていたりしてあまり見かけません。加えて、日帰り観光客らの手

によって餌付けされたウサギたちのお腹はいっぱい。彼らの動かざること山の如し。そんな彼らも日が落ちる頃には道端にたむろし始めます。

そして少なくなった人の姿を見るなりピョンピョンと全力疾走して私たちの足元に来るではありませんか!! 苦しゅうない、食え! とエサを与えるのです。なんと愛らしい姿でしょう。



写真3：お食事中のウサギ

そして完全に日が落ちて、海ほたる観察会も終わった頃には休暇村前には大量のウサギが!! 見渡す限りウサギ・ウサギ・ウサギ!! 人が歩けば駆け寄ってきます。まるで売れ行き絶頂の最強で無敵のアイドルになった気分です。それにしても奈良の鹿のような圧迫感や角もないため気兼ねなく天下を取ったかの様に振る舞えるのです。無垢で、100%の愛らしさで私の元へ来てくれる者などいないと思っておりましたが、初対面のくせに憎い連中です。そしてふと顔を上げてみると、さすがは宿泊施設が1つしかない離島です。夜空もキレイでした。上を向けば星空、下を向けばウサギ。なかなか首が大変です。それにしても私も大学入学以降色々な所へ旅行に行きましたが、ここまで充足した旅行先はありませんでした。またグルメ旅でもないの、私のように胃と食道を痛めつけてしまった方にも、日々お疲れの皆様にも、ご家族でも本当にオススメの旅行先です。ぜひとも島外でエ

サを大量購入して英気を養っていただきたいと思います。(余ったエサは本土へ持ち帰りましょう！)

ギリシャって良いですね



写真4：EPICHARIS 前

余裕があるのでもう一つの旅行先をご紹介します。コロナパンデミック以降海外旅行も行きにくくなったり、その反動で観光客がいまは増えて旅行費が高騰していたりと大変な状況です。しかも働き始めてからというもの、長期休暇もなく学会でもなければ海外旅行は難しいですね。そんな時、手軽に行ける海外というのは非常に魅力的です。そう、それは和歌山県にあります。え!? 長崎じゃないの!? 志摩でもない!? てか国内じゃん。色々なご批判が聞こえてくるようです。でも、いまは少しだけ知らないふりをします。そう、海外気分を味わえる国内旅行という訳です。九州だと長崎のハウステンボスや佐賀のポーセリンパークが有名ですが、九州民なので九州外をご紹介します。さて、和歌山と聞いたら出てくるのはポルトヨーロッパでしょうか。和歌山駅からもさほど遠くなく、子どもも遊べる遊園地ですがそこではありません。さあもう分かりましたね。Wakanoura Nature Resort EPICHARIS というホテルです。え、知りませんでしたか? どの辺かと言うと、岸田

総理が爆弾を投げられた所の近くです。

ここはギリシャのサントリーニ島のような雰囲気があります。サントリーニ島といえばギリシャ国旗のように白と青の映える美しい街並みが有名ですが、ここも美しい配色とキレイな海が目の前に広がります。



写真5：ウェルカムドリンクを飲みながら

さて公式 HP で申し込めば空いていると部屋がグレードアップされるということです。行ってみたらグレードアップしていただきました。楽しみだなあ。壁は白く、扉や絨毯は青です。白と青の映えるギリシャ感…。さあお部屋の前に着きました。青い扉を開くと目の前には真っ赤なクッションや枕が!!! え、赤いんですけど。

いや、まあ、良いんですけどね。これは



写真6：お部屋

これでアリです。ベランダにはキレイな白い椅子が置いてあり、波の音を聞きながらゆっくり過ごせました。さて、この近くにはご飯屋さんはありません。せっかくなのでギリシャ料理をいただきます。



写真7：晩ご飯



写真8：朝ご飯

晩ご飯の時には生演奏付きでした。ただ、皆様お気付きかもしれませんが、ご飯の量が多い!! 前述しましたが私の胃はもう貧弱なので、1人で食べきるのはちょっと大変でした。朝ご飯に関しては、食べきれない自信がないという方は近くに和歌浦漁港おっとと広場という海鮮が食べられる場所があるので、そこに遊歩道を通して歩いて行くと良いかもしれません。ただこのホテルで気をつけるべきことは、お風呂の壁がガラスなので洗面所やベランダからは丸見えな点ですね。

さて、この近隣の観光地をご紹介します。和歌山と言えば紀州徳川家です。その縁から紀州東照宮があります。またすぐ近くには和歌浦天満宮などがあります。これらの注意点は、もう階段がすごいんです!



写真9：和歌浦天満宮



写真10：和歌浦天満宮からの景色

はい。キツかったです。またここから少し遠く、でもホテルからは見える紀三井寺という桜の名所もありましたが、そこも登りました。登った先で知ったのですが、さすがは名所というべきかバリアフリーなもので、エレベーターやケーブルカーがあったのです。ホテルから見えてたあそこ行こ〜だけで行った私とは異なり、お金で解決するのもよろしいかと思います。他にも和歌山には和歌山城や前述した友ヶ島などもありますし、遠いですが白浜やアドベンチャーワールド、高野山など本当にメジャーな観光地もたくさんあります。和歌

山の手の者ではありませんが、関空も近くてオススメです。



写真 11：紀三井寺からの眺め

終わりに

このような観光スポットは皆様の方が詳しくあったかもしれません。他にも海外旅行感が味わえるホテルと言えば、高知県にあるヴィラ・サントリーニや、福島県にある British Hills などがあり、行ってみたい場所でもあります。私自身はバイタリティを失い、また戦争の影響で飛行機の搭乗時間がかかなり長くなったいま、脱コロナと世間では言えども国内旅行で海外気分を味わえる魅力的なものがまだまだあると思います。他には伊豆にあります花舞竹の庄など高級旅館とは違った魅力のある温泉旅館があったりして、図らずも独占したお話などをご紹介したいのですが、写真をほとんど撮っていないため名前だけ登場させて終わろうと思います。

拙い文章でございましたがお付き合いいただきありがとうございました。それでは皆様におかれましては、良いお年をお迎えくださいませ。

次号は、鹿児島市立病院／下島 尚樹先生のご執筆です。
(編集委員会)

